



知ろう！身近なSDGs ④

デザインウォッチング

川崎市立日本民家園

報告書



公益社団法人かながわデザイン機構は
持続可能な開発目標 (SDGs) を
支援しています

開催日 : 2022年7月29日(金)
開催時間: 14:00 ~ 16:30
参加人数: 8名
所在地 : 川崎市多摩区枡形 7-1-1 k



コロナ禍の所為で民家園としては中止しているガイドによる案内を、ガイド霜田様に直にお願いすることが出来、20軒以上の古民家を回ることが出来た。大変熱心な方で各古民家を丁寧に説明して下さい。全てを報告は出来ないが、数軒紹介したい

◆旧三澤家住宅

これは長野県伊那市に江戸後期に建てられた薬屋問屋であり、明治に入ってから旅籠になっている。目薬で財を成したようで、立派な許可証が壁にかかっている。家屋は梁行 12.7m、桁行 13.6m ある切妻造りで、特徴的なのは、屋根である。栗の木 9m を幅 10cm 長さ 60cm に手割りし、屋根に並べ押し縁で抑え、その押し縁の上に石を置くことで固定している。釘は全く使用していない。この作りで地震も風雪も耐えてきたそうだ。家の中に構造を示すサンプルが作られている。店には薬箱が鎮座していた。



◆旧広瀬家住宅

これは山梨県塩山市荻原にあった切妻造りの農家で桁行 14.5m、梁行 8.9m の広さである。特徴的なのは玄関のある面の軒先はとて低くできており頭を低くしなければ入れない。これは風の強い山の斜面にあったので風を防ぐためであり、反対面の軒先は普通の高さになっている。また屋根の棟には土を置くことで屋根を安定させ、そこには花が植わっていた。



かやぶき屋根の葺き替えが行われていたが、職人さんたちが皆若かったので、後継者が育っていることでホッとした。